

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600182	事業の開始年月日	平成21年5月1日
		指定年月日	平成21年5月1日
法人名	医療法人社団 愛友会		
事業所名	グループホーム ふじの		
所在地	(252-0187) 神奈川県相模原市緑区名倉1196		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和元年8月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり」「楽しく」「穏やかに」そして「一緒に」をモットーに、一人ひとりのその人らしさを大切にした生活を送っていただくために、常に利用者様と喜怒哀楽を共にし、人権の尊重を念頭に置き安心して生活を送っていただけるよう支援をおこなっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成31年2月12日	評価機関 評価決定日	令和元年6月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR中央本線藤野駅から徒歩10分の県道520号線に面したところであり、相模川を見下ろせるコンクリート3階建ての建物です。事業所からは朝日や夕日を眺めることができ、近くの散歩では里山の風景や草花などの季節感を楽しめます。運営は市内を中心に、地域医療、介護、保育などの事業を展開している医療法人です。

<優れている点>

自然豊かな環境の中で、「ゆったり」「楽しく」「穏やかに」そして「一緒に」をモットーに「その人らしさ」を大切にしたケアを行っています。利用者の思いや意向は変化していくものと心得、利用者へ挨拶と一言を加えた声かけを積極的に行い、利用者の今の思いを引き出して理解することに努めています。法人による定期的な健康診断や、事業所開設時からずっと担当しているベテラン訪問看護師による健康管理体制があり、利用者は安心して暮らしています。職員はタイムリーに医療的アドバイスが得られています。地域包括支援センターが中心となって、高齢者の地域交流の場としての「ゆずカフェふじの」が毎月2回開催され、地域活動が活発に行われています。利用者は毎月参加し、地域と交流しています。

<工夫点>

タブレット端末を導入し、利用者の血圧、脈拍、体温、水分摂取、排泄状況などの情報、申送り内容や業務日誌などを入力しています。これにより職員間の情報共有ができ、より良いケアの実施に反映できています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ふじの
ユニット名	あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をもとに、一人ひとり、その人らしさを大切にした生活を送って頂けるように心がけています。	理念の実践として、「その人らしさ」を大切にしたケアを行っています。利用者の思いや意向は常に変化するものと心得ています。利用者へ挨拶と一言を加えた声かけを積極的に行い、利用者のその時々を思いを引き出し、それに合ったケアに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し地域のイベントに入居者様をお連れし参加させて頂いています。	散歩の途中の畑で農家の人と会話を交したり、毎月開催される高齢者の地域交流の場「ゆずカフェふじの」に参加しています。納涼祭りなどには練習も含めて参加し、地域と交流しています。職員の殆どは、近隣に住んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者様と一緒に地域行事などへ積極的に参加し交流することにより認知症の人への理解を得ています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、会議を行い高齢者支援センター職員、自治会長、民生委員、入居者様の参加にて主に活動状況の報告という形ですが意見交換も出来る機会となっています。家族全員にも参加の呼びかけをしています。	2ヶ月ごとに地域包括支援センター職員、自治会々長、民生委員、利用者、家族がメンバーで行っています。自治会々長から地域のイベントについての情報をタイムリーに得て、利用者がイベントに参加することに役立てています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者支援センターが開催する地域ケア会議に参加し地域の実情の把握に努めており市高齢者政策課とも連絡を取り合うこともあります。	市担当者に利用者の介護認定における事業所のケアについて理解をして貰っています。地域ケア会議やグループホーム連絡会に参加しています。市主催の各種研修についても積極的に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全面を考慮し、玄関の施錠は行わせて頂いておりますが常に入居者様の状況を観察し見守りながら適切なケアを行なっています。	身体拘束をしないケアについての研修を事業所内で年3回行っています。オムツはずしなど見守りが必要な利用者については事務室から良く見える居室に変更するなどして、身体拘束をしないケアの実践に努めています。玄関は県道に面していることもあり安全を考慮して施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の生活の中、職員間で言葉かけ、ケアの方法について等話し合い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている方はいませんが研修等の機会に積極的に参加するようにし、職員と情報共有するようにしていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に、ご家族とご本人に施設内を見学をして頂き、契約時には一つ一つ重要事項を説明し不安や疑問、意向等を聞きながら同意を得て頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関口にご意見箱を設置しておりますが、面会時、ご家族様と対話する機会を持ち事業所に関するご意見や要望を伺えるよう心がけて反映できるよう努めています。	運営推進会議に利用者、家族に出席して貰い、意見を聞く場を設けています。サービス作成担当者は毎回、電話で直接家族と話をし意見を聞き作成しています。家族の来訪時には、管理者が声をかけて話を聞くようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、カンファレンスと同時にミーティングの時間があり職員同士の情報交換の場を設けています。	月1回、職員全員が集まる会議で、職員同士の話し合いや情報交換の時間を設けています。職員の意見から、勤務体制の改善を行っています。職員専用の意見箱を事務室に設置し、意見を集める工夫もしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に一度の雇用契約更新時に職員の評価を行い、給与水準への反映が行われています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の自主的な研修参加に配慮し、研修後は報告書を回覧し職員間で共有できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2か月に一度に各事業所の管理者、フロアリーダーが集まりリーダー研修を行ない情報交換、勉強会を行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご契約前に訪問調査を行い、入居者様とご家族様と面談し情報収集しご本人様の要望に対応できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご契約前に、ご本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、ご家族様とのコミュニケーションを大切に話しやすい雰囲気作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご契約前に得た情報を職員で連絡ノート等を用いて、しっかりと把握し安心してサービスを受けることができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「できること」はしていただくという姿勢でケアにあたるよう努めていますが、危険性が高い場合は必要に応じて介助するようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様の気持ちに寄り添い、ご家族様の意向を聞きながら、ご本人様と良い関係が築けるようにしています。又、ご家族様にできることは協力して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人、友人の面会時には、ゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気作りに心がけています。又、ご希望のある方には馴染みのある方に電話などかけて頂くように支援しています。	面会時間を決めていないので家族などは好きな時に会うことができます。居室でゆっくり話ができるように椅子や湯茶出しの支援をしています。来客用トイレもあります。手紙の購入や投函、子機で居室から気兼ねなく電話をかけることなどの支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が対話できるような場を設けたり、利用者様が出来る事、できない事を把握し、その方が力を発揮できるように声掛けを行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様に会った時には、様子を伺ったりしていますが必要に応じて、相談・支援に応じたいと考えています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ある程度、入所される前の暮らし方を尊重しますが日々の行動、言動、表情を観察し、その中で思いや希望を把握するように努めています。	利用者の思いは日々時々変化していくという理解でケアをしています。挨拶と一言を加えた声かけを積極的に行い、利用者の今の思いを引き出すことに努めています。希望や意向については職員間で話し合ったり申し送りをして情報共有をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況等を用いて情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援し、なおかつ残存能力を活かせるように、その中で現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや申し送りに出た意見等を検討し、現状に合ったケアができるようにしています。	サービス計画作成担当者は月1回、電話で利用者家族と意向やケアの状況について直接話をしています。タブレット端末で利用者1人ひとりの生活の様子も遡って確認することができます。これらを踏まえて、全職員が出席するカンファレンスで介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様々な気づきを申し送り、介護日誌と連絡ノートに記入して情報を共有しながら常に話し合い、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々に合わせ、その時の状況に合ったケアを実践しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	イベント時の食材などの購入は地域のスーパーを利用し、地域行事にも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医師による月一度の往診があり、利用者様のご様子や身体異常が見られた場合その旨をお伝えしています。利用者様やご家族様よりご要望がある時は、他の医療機関の受診も行なっています。	家族の同意を得て、医師による月1度の往診と、年約4回の協力病院における健診を受けています。医師は他診療科受診や治療の指示など、適切な医療支援をしています。往診時は週1回の訪問看護師も同行し、健康管理を行っています。職員と連携し、利用者の安心したケアに繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、訪問看護師が来設し日常的情報提供を行なっています。又、状態変化がある場合は連絡を取り適切な指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行ない医療機関と情報を共有しています。入院中、管理者が訪問し、退院を含め今後の方向性について話し合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化された場合、ご本人にとって一番良い方法(環境)について、ご家族様と話し合い、主治医と連携を密に取っています。	入居時に緊急時の延命治療の有無の同意と看取りに関する指針を説明し同意をもらっています。医師と家族、管理者、ケアマネジャーなどが同席し、家族の望む看取り、事業所で出来る対応を話し合っています。職員は看取りについて研修を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には、全身状態を確認しバイタルチェックを行ない、速やかに医師と看護師と連絡対応が出来るように備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の定期的な防災訓練を行い、消火器、消火栓の使い方の訓練を行なっています。	昼夜間帯を想定した消防避難訓練を通して、声かけや連携の重要性を確認しています。朝礼時に緊急連絡網やヘルメット、安全避難誘導場所の確認などを行い職員が素早く対応できるよう防災教育に取り組んでいます。	備蓄品の適正な量と管理方法の取り組みも期待されます。また、地域と連携した防災訓練を行うことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人様の気持ちを尊重し、さりげない声掛けや言葉掛けを心がけています。プライバシーの確保に注意し、記録など個人情報の取り扱いに気を付けています。	「ちゃん」付や何気なく発している言葉、スピーチロックなどを会議で話し合っています。職員同士は利用者への言葉遣いや対応を互いに注意し合える環境です。虐待防止や守秘義務の研修をしています。個人情報記録は書庫に施錠保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中での会話で、思いや希望を探ったり、一人ひとりが自己決定が出来るような場面を作ってあげるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のプログラムを決めるのではなく、個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問理美容を利用しています。ご家族様にも協力頂き季節に合わせた服装ができる支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	たまに外食や出前等で変化をもたせ、誕生日にはケーキを提供しています。片付けが出来る方には手伝って頂いています。	職員と共にテーブル拭き、配下膳、食器洗いなどを行っています。農園で野菜を栽培したり、さつまいも掘りをして全員で調理しています。季節の行事食、年2回レストランでの外食、希望に応じた出前食、庭でのバーベキューなども楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量を食事チェック表に摂取量を記入しています。10時・15時に水分補給や、おやつを召し上がられています。水分の取りにくい方にはゼリー等提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一か月に一度の訪問歯科があります。毎食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ、声掛け・見守り・介助を行ない義歯の定期的な洗浄等配慮しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛け等を行ないトイレでの排泄が出来るように努めています。	利用者にまめに声かけし、トイレでの排泄に努めています。希望で夜間はオムツ、日中は布パンツなど、きめ細やかに支援をしています。夜間は見守りを強化し、安全に配慮しつつ、出来るだけトイレでの自立排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、牛乳を摂取し自然排便を促す取り組みを行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	概ね、時間は決まっていますが体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛けを行なっています。	希望の日に入浴をしています。本人は職員と一緒に着替えを準備しています。好みの湯温に調節し1時間ほどゆっくり入浴している人もいます。ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を楽しんでいます。洗身中はタオルをかけるなど羞恥心に配慮しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各居室にあるエアコンを使用して温度調整を行い、快適な環境にて過ごし体調や希望に応じ自由に休息して頂いています。日中は適度な活動を促し生活リズムを作ることで安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を職員が把握し、いつでも確認できるようファイルに保管しています。変更があった場合は情報を共有し、服薬後の観察を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人らしく過ごせる役割が持てる場を作り出せるよう努めています。外出や行事等に参加して頂くことにより気分転換となるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候が良い季節には、ドライブ・散歩・買物等に出掛けています。	散歩時は地域の人々との交流や直売野菜の購入を楽しんでいます。月1回ゆずカフェ、食事会、小遠足や花見のドライブ、年1回全利用者が法人のバスで相模湖舟遊びなどの外出をしています。日用必需品の買い物や図書館への外出支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の同意を頂き、ご自分で管理が可能な方には持っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話を利用して頂いています。手紙などの支援も行なっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った創作物を壁面に飾っています。	居間兼食堂には民芸調のチェストやソファ、テレビを置き、家庭的な雰囲気を作っています。温湿度計で湿度や温度管理をしています。壁面には職員の写真や活動、行事の写真を貼り、会話の話題作りに繋げています。モニターで転倒防止や早期発見など安全に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル以外にソファを設置しています。くつろぎながらテレビ鑑賞をされたりカラオケを楽しんだりされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みのあるものを持ってきて頂き、できる限り自宅に近い雰囲気となるように、ご家族様に協力して頂いています。状況よりベッドやタンスの位置にも配慮しています。	居室にはそれぞれ馴染みのタンス、椅子、テーブル、ぬいぐるみなどを置いたり思い出の写真飾っています。居室でテレビを観たり本を読んだり思い思いに過ごしています。ドア小窓のカーテンで居間照明が夜間眩しくないように工夫をしている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置しています。居室には、不要なものを置かないようにし、危険防止に努めています。		

事業所名	グループホーム ふじの
ユニット名	やまゆり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をもとに、一人ひとり、その人らしさを大切に生活を送って頂けるように心がけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し地域のイベントに入居者様をお連れし参加させて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者様と一緒に地域行事などへ積極的に参加し交流することにより認知症の人への理解を得ています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、会議を行い高齢者支援センター職員、自治会長、民生委員、入居者様の参加にて主に活動状況の報告という形ですが意見交換も出来る機会となっています。家族全員にも参加の呼びかけをしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者支援センターが開催する地域ケア会議に参加し地域の実情の把握に努めており市高齢者政策課とも連絡を取り合うこともあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全面を考慮し、玄関の施錠は行わせて頂いておりますが常に入居者様の状況を観察し見守りながら適切なケアを行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の生活の中、職員間で言葉かけ、ケアの方法について等話し合い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている方はいませんが研修等の機会に積極的に参加するようにし、職員と情報共有するようにしていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に、ご家族とご本人に施設内を見学をして頂き、契約時には一つ一つ重要事項を説明し不安や疑問、意向等を聞きながら同意を得て頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関口にご意見箱を設置しておりますが、面会時、ご家族様と対話する機会を持ち事業所に関するご意見や要望を伺えるよう心がけて反映できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、カンファレンスと同時にミーティングの時間があり職員同士の情報交換の場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に一度の雇用契約更新時に職員の評価を行い、給与水準への反映が行われています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の自主的な研修参加に配慮し、研修後は報告書を回覧し職員間で共有できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2か月に一度に各事業所の管理者、フロアリーダーが集まりリーダー研修を行ない情報交換、勉強会を行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご契約前に訪問調査を行い、入居者様とご家族様と面談し情報収集しご本人様の要望に対応できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご契約前に、ご本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、ご家族様とのコミュニケーションを大切に話しやすい雰囲気作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご契約前に得た情報を職員で連絡ノート等を用いて、しっかりと把握し安心してサービスを受けることができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「できること」はさせていただくという姿勢でケアにあたるよう努めていますが、危険性が高い場合は必要に応じて介助するようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様の気持ちに寄り添い、ご家族様の意向を聞きながら、ご本人様と良い関係が築けるようにしています。又、ご家族様にできることは協力して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人、友人の面会時には、ゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気作りに心がけています。又、ご希望のある方には馴染みのある方に電話などかけて頂くように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が対話できるような場を設けたり、利用者様が出来る事、できない事を把握し、その方が力を発揮できるように声掛けを行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様に会った時には、様子を伺ったりしていますが必要に応じて、相談・支援に応じたいと考えています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ある程度、入所される前の暮らし方を尊重しますが日々の行動、言動、表情を観察し、その中で思いや希望を把握するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況等を用いて情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援し、なおかつ残存能力を活かせるように、その中で現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや申し送りに出た意見等を検討し、現状に合ったケアができるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様々な気づきを申し送り、介護日誌と連絡ノートに記入して情報を共有しながら常に話し合い、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々に合わせ、その時の状況に合ったケアを実践しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	イベント時の食材などの購入は地域のスーパーを利用し、地域行事にも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医師による月一度の往診があり、利用者様のご様子や身体異常が見られた場合その旨をお伝えしています。利用者様やご家族様よりご要望がある時は、他の医療機関の受診も行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、訪問看護師が来設し日常の情報提供を行なっています。又、状態変化がある場合は連絡を取り適切な指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行ない医療機関と情報を共有しています。入院中、管理者が訪問し、退院を含め今後の方向性について話し合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化された場合、ご本人にとって一番良い方法(環境)について、ご家族様と話し合い、主治医と連携を密に取っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には、全身状態を確認しバイタルチェックを行ない、速やかに医師と看護師と連絡対応が出来るように備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の定期的な防災訓練を行い、消火器、消火栓の使い方の訓練を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人様の気持ちを尊重し、さりげない声掛けや言葉掛けを心がけています。プライバシーの確保に注意し、記録など個人情報の取り扱いに気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中での会話で、思いや希望を探ったり、一人ひとりが自己決定が出来るような場面を作ってあげるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のプログラムを決めるのではなく、個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問理美容を利用しています。ご家族様にも協力頂き季節に合わせた服装ができる支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	たまに外食や出前等で変化をもたせ、誕生日にはケーキを提供しています。片付けが出来る方には手伝って頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量を食事チェック表に摂取量を記入しています。10時・15時に水分補給や、おやつを召し上がられています。水分の取りにくい方にはゼリー等提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一か月に一度の訪問歯科があります。毎食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ、声掛け・見守り・介助を行ない義歯の定期的な洗浄等配慮しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛け等を行ないトイレでの排泄が出来るように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、牛乳を摂取し自然排便を促す取り組みを行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	概ね、時間は決まっていますが体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛けを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各居室にあるエアコンを使用して温度調整を行い、快適な環境にて過ごし体調や希望に応じ自由に休息して頂いています。日中は適度な活動を促し生活リズムを作ることで安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を職員が把握し、いつでも確認できるようファイルに保管しています。変更があった場合は情報を共有し、服薬後の観察を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人らしく過ごせる役割が持てる場を作り出せるよう努めています。外出や行事等に参加して頂くことにより気分転換となるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候が良い季節には、ドライブ・散歩・買物等に出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の同意を頂き、ご自分で管理が可能な方には持っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話を利用して頂いています。手紙などの支援も行なっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った創作物を壁面に飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル以外にソファを設置していません。くつろぎながらテレビ鑑賞をされたりカラオケを楽しんだりされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みのあるものを持ってきて頂き、できる限り自宅に近い雰囲気となるように、ご家族様に協力して頂いています。状況よりベッドやタンスの位置にも配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置しています。居室には、不要なものを置かないようにし、危険防止に努めています。		

平成30年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふじの

作成日： 令和 1 年 7 月 31日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策として、備蓄品の管理が不足している。 適正在庫と賞味期限等の管理を明確に行う必要がある。	適正在庫の確保と賞味期限を明確にする	9月までに在庫一覧表を作成し在庫数と賞味期限を明確にする。 不足がある場合は購入を行う	3ヶ月
2	35	災害対策として地域との連携が不足している	地域と協力した防災訓練の実施	自治会長へ相談して地域の9月実施予定の防災訓練へ参加	2ヶ月
3	6	家族アンケート結果で、利用者様の日常の様子について、分かりにくい・行事計画が不明等のご意見があり、分かりやすく連絡する必要がある。	日々の活動状況を分かりやすく伝える	・運営推進会議の活用 ご家族様に参加の呼びかけと議事録送付 ・毎月のお便りに写真を増やして、分かりやすい資料を届ける 7月分より開始する	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月